

受験生に親が言ってはいけない言葉



県立高校入試予定

願書提出 2/14～20

志願変更 2/22～26

県立入試 3/5・6

追検査 3/8・9

合格発表 3/13

今年度よりインフルエンザ等で
受験できない生徒の救済のた
めに追検査が行われます。

3年生にとってはよいよ県立入試が迫ってきました。推薦入試等ですでに決まっている人もいますが多くの3年生はこれから県立高校を受験します。誰もが通る道といっても本人の不安はもちろんのことご家族のみなさんも心労が絶えない時期だと思います。なんとか全員が希望する進路に向かって進んでほしいと心より願っています。

さて、『受験生 言ってはいけない言葉』でネット検索するといろんな人のいろんな考え方を知ることができます。（一度お試ください）その中でなるほどなあと感じた言葉に、

「大丈夫か？」があります。これは一見、子どものことを気遣っているような問いかけですが、実は「大丈夫だよ」の答えを聞くことによって親が安心しようとする心理が働いています。また、「大丈夫じゃない」と口に出せば子も親も不安が高まるばかりです。いずれにしろあまり意味のない言葉です。その上、子どもも適当に答えます。「勉強進んどるか？」「調子はどうや？」これも同じです。

「お兄ちゃん（お姉ちゃん）はできたのに」「友達の〇〇君は優秀でいいなあ」「無理じゃないのか」「もし不合格ならどうするの」などの言葉はいけないのは誰でもわかります。つまり、追い詰める言葉、決めつける言葉、不安をあおる言葉は言うまでもなくNGです。多分こんな言葉を言っているご家庭はないことと思います。

難しいのは「頑張れ」です。一生懸命頑張っているのにこれ以上「頑張れ」と言われてもどうしようもありません。また、子どもは親に対して「頑張っていることをわかっていていないんだな」と感じるかもしれません。苦痛にゆがんだ顔で走るマラソンランナーに沿道の人々はあまり意味を考えずに「頑張れ」と声援を送ります。そう考えると「頑張れ」というのは単なる掛け声だけであまり意味のない言葉なのかもしれません。

「君ならできる」これは私が好きな言葉です。今まで幾度となく生徒に言ってきました。なぜ好きかというと自分が学生時代に言ってもらえて嬉しかったからです。でも、自分が好きだと感じていても相手に伝わるかは別です。入試を直前に「君ならできる」と言っても「何を根拠に…」と言われたらうまく説明できないかもしれません。

裏面もご覧ください

「頑張ってるね」「ご苦労さん」

親として、何とか子どもに声をかけてやりたいという気持ちは分かります。しかし、このように良かれと思ってかけた言葉が逆に本人を苦しめることにもつながります。そうかといって何も言わないのも無関心のように心苦しいものがあります。受験生を持つ親としてここが難しいところです。

私は、中学3年生ともなれば親が言って勉強するものではないと思います。また、今まで長年の成育歴や学習歴の上に今があるので、言葉一つで大きく好転はしないと思います。つまり、どう声をかけるかよりもどう見守るかではないかと思います。

- なるべく普段通り自然体を心がける。
- 家族同士明るい挨拶を交わす。
- 夕食はできるだけ家族そろって食べる。
- 子どもが話し出したらしっかりと聴く。(※)
- 子どもの前でスマホは使わない。
- 勉強を始めたならテレビを消して親も読書などをする。
- 試験が終わった後に、できたかどうかを聞かない。など

(以前、私が心がけたことです。すべて実行できたかというと???ですが…)

気の利いた言葉を言わなくても家族の温かい気持ちとさりげない優しさが受験生を後押ししてくれるものと信じています。

ずいぶん前ですが、私の子どもの受験が近づくと、母（子どもにとっては祖母）は何も言いませんでしたが孫のために毎日仏壇（ご先祖様）に手を合わせて拝んでいました。非科学的ですが家族としての温かい気持ちは伝わってきました。

あと少しです。声をかけるなら「頑張れ」よりも「頑張ってるね。ご苦労さん。」はどうでしょう？



昨年末に『聴く力』アップセミナーに参加してきました。「聞く力」ではなく「聴く力」です。(※)

「指導精神対話士」という講師の方から、「寅さん」（映画 男はつらいよの「渥美清」）の聴き方をお手本ににするといいという話が心に残りました。

確かに寅さんはマドンナの横に座り「そうか、辛かったなあ」「えらいなあ」「あんたは悪くないよ」と本当に親身になって聴きます。必ず最後はふられてしまいますが「寅さん、ありがとう！」というマドンナの声を背に、寅さんは「いいってことよ」と涙をこらえ江戸川の土手を歩いて去っていくのでした…（スイマセン古くて。たまにBSでやってます。）

